

### 第3章 緑化事業道路及びその周辺の歩行者に対するインタビュー調査

#### 3-1 歩行者に対する3回のインタビュー調査（調査Ⅱ，Ⅳ，Ⅵ）

##### 3-1-1 調査目的

本調査は、当該道路周辺の歩道を歩く歩行者を対象とし、植樹帯設置事業が行われる前と後、及び1年後の計3回実施した街頭インタビューによるアンケート調査である。これら緑化前後における歩行者から見た歩行空間に対するイメージや問題点の変化を知り、居住者調査と実験室実験とも比較し、今後の道路緑化事業のための基礎資料を得ることを目的とする。

##### 3-1-2 調査項目

調査項目の内容は、大きくは下記の4つから成り立っている。特に、2），3），4）の項目は居住者調査と同一にし、その比較を可能にしている。

- 1) 歩行者の地域環境に対する意識の背景
- 2) 行動特性を背景とした歩行の実態
- 3) 対象歩行空間に対するイメージ
- 4) 対象歩行空間における実態

##### 3-1-3 調査仕様

###### a. 調査段階

この調査も居住者調査同様、植樹帯が設置される1ヶ月前（調査Ⅱ）と設置3ヶ月後（調査Ⅳ）及び設置1年後（調査Ⅵ）の計3回行われた。表I-20に調査概要を示す。

###### b. 調査対象地点

この調査は、横浜市磯子区森1丁目と3丁目の産業道路沿いにある表I-21に示す7地点の歩行空間を調査対象地点とした。（図I-1参照）尚、3回調査を行ったのはB，Cの2地点であり、その他の5地点は調査Ⅳ，Ⅵの2回調査である。D～Gの4地点でも調査を行ったのは、それらの地点が緑化未整備道路であり、今後、緑化事業を実施する時の事前調査資料となるからである。また、A，B，C地点と比較するための調査対象

表 I - 20 調査 II , IV , VI の概要

調査番号	調査段階	調査期日	対象地点の有効票数						
			A	B	C	D	E	F	G
II	植樹帯設置 1ヶ月前	'87. 3/ 5	—	26	25				
IV	植樹帯設置 3ヶ月後	'87. 6/22 '87. 7/ 7~9	25	25	25		25	25	25
VI	植樹帯設置 1年後	'88. 3/ 7~10	25	25	25	25	25	26	25

表 I - 21 調査対象地点 (A ~ G 地点)

地点記号	地 点 名	道 路 緑 化 状 況
A	森町ビル前	緑化事業道路
B	小学校運動場前	
C	マツザカヤ前	既存緑化道路
D	共同ビル前	
E	磯子車庫前	
F	森町公園前	緑化未整備道路
G	磯子郵便局前	

でもある。

#### c . 調査対象者

各調査対象地点を歩行している満20歳以上の女性（主に主婦）を調査対象とした。尚、居住者調査で回答した者も含め、1度本調査に回答した者は除いた。

d . 調査方法

調査方法は、調査員が各地点に立ち、そこを歩いている調査対象として適した歩行者に調査を依頼する。そして、被調査者に質問票を見てもらいながらその場で回答をしてもらい、それを調査員が調査票に記入する街頭面接法によるアンケート調査である。

e . 調査期日

表 I - 2 0 参照

f . 調査票

調査Ⅳにおける調査票を資料②に示す。

3 - 1 - 4 標本数と回収結果

表 I - 2 2 に各地点の調査別標本数及び回収結果を示す。

表 I - 22 標本数及び回収結果

地 点	調査番号	標 本	有効票	拒 否	拒否率 (拒否／標本)	*1 無効票
A	IV	85	25	60	70.6%	0
	VI	87	25	62	71.3%	0
	小 計	172	50	122	70.9%	0
B	II	52	26	26	50.0%	0
	IV	62	25	37	59.7%	0
	VI	86	25	61	70.9%	0
	小 計	200	76	124	62.0%	0
C	II	65	25	39	60.0%	0
	IV	88	25	63	71.6%	0
	VI	92	25	67	72.8%	0
	小 計	245	75	169	69.0%	1
D	IV	76	25	51	67.1%	0
	VI	74	25	49	66.2%	0
	小 計	150	50	100	66.7%	0
E	IV	63	25	38	60.3%	0
	VI	85	25	60	70.6%	0
	小 計	148	50	98	66.2%	0
F	IV	54	25	29	53.7%	0
	VI	104	26	78	75.0%	0
	小 計	158	51	107	67.7%	0
G	IV	46	25	21	45.7%	0
	VI	91	25	66	72.5%	0
	小 計	137	50	87	63.5%	0
総 計		1210	402	807	66.7%	1

\*1 年齢が調査対象に満たっていないために無効票とした。

### 3 - 1 - 5 回答者の属性

回答者の属性として、居住地域、居住年数、年齢、仕事の有無、住戸形態1（持家－借家）、住戸形態2（一戸建て－アパート）の6つの項目について、それらの地点・調査別集計結果を表I-23～28に示す。

表 I - 23 居住地域の地点・調査別集計結果

地 点	調 査 番 号	カテゴリー分布 (%)			度 数 計 (人)
		磯子 区 森 町 内	磯子 区 内	磯子 区 外	
A	IV	56.0	44.0	0.0	25
	VI	52.0	38.0	12.0	25
	計	54.0	40.0	6.0	50
B	II	73.1	23.1	3.8	26
	IV	56.0	24.0	20.0	25
	VI	72.0	24.0	4.0	25
	計	67.1	23.7	9.2	76
C	II	84.0	8.0	8.0	25
	IV	72.0	28.0	0.0	25
	VI	60.0	24.0	16.0	25
	計	72.0	20.0	8.0	75
D	IV	40.0	48.0	12.0	25
	VI	32.0	52.0	18.0	25
	計	36.0	50.0	14.0	50
E	IV	64.0	24.0	12.0	25
	VI	40.0	36.0	24.0	25
	計	52.0	30.0	18.0	50
F	IV	20.0	64.0	16.0	25
	VI	34.6	48.2	19.2	26
	計	27.5	54.9	17.6	51
G	IV	32.0	48.0	20.0	25
	VI	28.0	56.0	18.0	25
	計	30.0	52.0	18.0	50

表 I - 24 居住年数の地点・調査別集計結果

地 点	調 査 番 号	カ テ ゴ リ 一 分 布 ( % )							度 数 計 (人)
		1 年 未 満	1 年 3 以 年 上 未 満	3 年 6 以 年 上 未 満	6 年 11 以 年 上 未 満	11 年 20 以 年 上 未 満	2 0 年 以 上	鐵在 子住 区 *1 外 に	
A	IV	8.0	8.0	20.0	8.0	28.0	28.0	0.0	25
	VI	12.0	4.0	8.0	0.0	32.0	36.0	8.0	25
	計	10.0	8.0	14.0	4.0	30.0	32.0	4.0	50
B	II	19.2	7.7	0.0	7.7	26.9	11.5	26.9	26
	IV	12.0	12.0	28.0	4.0	8.0	20.0	16.0	25
	VI	8.0	20.0	16.0	16.0	20.0	12.0	8.0	25
	計	13.2	13.2	14.5	9.2	18.4	14.5	17.1	76
C	II	0.0	4.0	4.0	36.0	28.0	12.0	16.0	25
	IV	8.0	12.0	8.0	24.0	32.0	16.0	0.0	25
	VI	4.0	8.0	8.0	32.0	28.0	4.0	16.0	25
	計	4.0	8.0	6.7	30.7	29.3	10.7	10.7	75
D	IV	8.0	8.0	20.0	20.0	28.0	8.0	8.0	25
	VI	4.0	0.0	16.0	16.0	16.0	32.0	18.0	25
	計	6.0	4.0	18.0	18.0	22.0	20.0	12.0	50
E	IV	12.0	8.0	8.0	16.0	28.0	20.0	8.0	25
	VI	4.0	8.0	8.0	20.0	28.0	8.0	24.0	25
	計	8.0	8.0	8.0	18.0	28.0	14.0	16.0	50
F	IV	8.0	0.0	4.0	16.0	40.0	16.0	16.0	25
	VI	0.0	11.5	7.7	19.2	26.9	15.4	19.2	26
	計	3.9	5.9	5.9	17.8	33.3	15.7	17.6	51
G	IV	12.0	8.0	0.0	4.0	40.0	18.0	20.0	25
	VI	8.0	0.0	8.0	8.0	36.0	24.0	16.0	25
	計	10.0	4.0	4.0	8.0	38.0	20.0	18.0	50

\*1 調査 II のみ、森町以外の鐵在子区内在住者の居住年数を聞いていないので鐵在子区外在住に含める。

表 I - 25 年齢の地点・調査別集計結果

地 点	調 査 番 号	カテゴリー分布 (%)					度 数 計 (人)
		20 代	30 代	40 代	50 代	60 歳 以 上	
A	IV	8.0	24.0	24.0	28.0	16.0	25
	VI	20.0	16.0	16.0	24.0	24.0	25
	計	14.0	20.0	20.0	26.0	20.0	50
B	II	7.7	23.1	19.2	26.9	23.1	26
	IV	36.0	24.0	4.0	28.0	8.0	25
	VI	16.0	12.0	20.0	18.0	36.0	25
	計	19.7	19.7	14.5	23.7	22.4	76
C	II	0.0	24.0	24.0	28.0	24.0	25
	IV	8.0	28.0	12.0	32.0	20.0	25
	VI	12.0	24.0	44.0	12.0	8.0	25
	計	8.7	25.3	26.7	24.0	17.3	75
D	IV	24.0	28.0	8.0	32.0	8.0	25
	VI	16.0	16.0	24.0	36.0	8.0	25
	計	20.0	22.0	16.0	34.0	8.0	50
E	IV	20.0	20.0	4.0	32.0	24.0	25
	VI	8.0	28.0	32.0	12.0	20.0	25
	計	14.0	24.0	18.0	22.0	22.0	50
F	IV	4.0	44.0	12.0	24.0	16.0	25
	VI	11.5	38.5	15.4	30.8	3.8	26
	計	7.8	41.2	13.7	27.5	9.8	51
G	IV	20.0	28.0	28.0	12.0	12.0	25
	VI	20.0	32.0	4.0	32.0	12.0	25
	計	20.0	30.0	16.0	22.0	12.0	50

表 I - 2 6 仕事の有無の地点・調査別集計結果

地 点	調 査 番 号	カテゴリー分布 (%)					度数 計 (人)
		常 勤	バ リ ト	内 職	そ の 他	*1 な し	
A	IV	8.0	20.0	4.0	4.0	64.0	25
	VII	20.0	8.0	4.0	12.0	56.0	25
	計	14.0	14.0	4.0	8.0	60.0	50
B	II	3.8	30.8	0.0	7.7	57.7	26
	IV	12.0	8.0	4.0	0.0	76.0	25
	VII	8.0	8.0	8.0	8.0	68.0	25
	計	7.9	15.8	3.9	5.3	67.1	76
C	II	8.0	8.0	0.0	0.0	84.0	25
	IV	4.0	20.0	0.0	0.0	78.0	25
	VII	32.0	24.0	0.0	16.0	28.0	25
	計	14.7	17.3	0.0	5.3	62.7	75
D	IV	32.0	8.0	4.0	0.0	56.0	25
	VII	20.0	28.0	0.0	16.0	36.0	25
	計	28.0	18.0	2.0	8.0	46.0	50
E	IV	20.0	0.0	4.0	4.0	72.0	25
	VII	28.0	20.0	0.0	4.0	48.0	25
	計	24.0	10.0	2.0	4.0	60.0	50
F	IV	8.0	8.0	0.0	12.0	72.0	25
	VII	11.5	3.8	0.0	11.5	73.1	26
	計	9.8	5.9	0.0	11.8	72.5	51
G	IV	28.0	20.0	8.0	12.0	32.0	25
	VII	28.0	18.0	0.0	4.0	52.0	25
	計	28.0	18.0	4.0	8.0	42.0	50

\*1 治どが専業主婦

表 I - 27 住戸形態 1 (持家-借家)  
の地点・調査別集計結果

地 点	調 査 番 号	カテゴリー分布 (%)		度 数 計 (人)
		持 家	借 家	
A	IV	76.0	24.0	25
	VI	60.0	40.0	25
	計	68.0	32.0	50
B	II	81.5	38.5	28
	IV	56.0	44.0	25
	VI	40.0	60.0	25
	計	52.6	47.4	76
C	II	88.0	12.0	25
	IV	84.0	16.0	25
	VI	76.0	24.0	25
	計	82.7	17.3	75
D	IV	56.0	44.0	25
	VI	72.0	28.0	25
	計	64.0	36.0	50
E	IV	68.0	32.0	25
	VI	56.0	44.0	25
	計	62.0	38.0	50
F	IV	64.0	36.0	25
	VI	69.2	30.8	26
	計	66.7	33.3	51
G	IV	60.0	40.0	25
	VI	48.0	52.0	25
	計	54.0	46.0	50

表 I - 28 住戸形態 2 (一戸建て-アパート)  
の地点・調査別集計結果

地 点	調 査 番 号	カテゴリー分布 (%)		度 数 計 (人)
		一 戸 建 て	ア パ ー ト	
A	IV	52.0	48.0	25
	VI	28.0	72.0	25
	計	40.0	60.0	50
B	II	30.8	69.2	26
	IV	32.0	68.0	25
	VI	8.0	92.0	25
	計	23.7	76.3	76
C	II	18.0	84.0	25
	IV	20.0	80.0	25
	VI	20.0	80.0	25
	計	18.7	81.3	75
D	IV	40.0	60.0	25
	VI	44.0	56.0	25
	計	42.0	58.0	50
E	IV	32.0	68.0	25
	VI	44.0	56.0	25
	計	38.0	62.0	50
F	IV	52.0	48.0	25
	VI	48.2	53.8	26
	計	49.0	51.0	51
G	IV	40.0	60.0	25
	VI	36.0	64.0	25
	計	38.0	62.0	50

居住地域については、A，B，C 地点で90%以上の人人が、D～G 地点で80%以上の人人が磯子区森町を含めた磯子区内に住んでいる。また、居住年数についても、70%前後の人人が3年以上住んでいる。従って、回答者は地域周辺のことをよく知っていると考えられる。仕事の有無については、A，B，C，E，F 地点で60%以上の人人が専業主婦である。それに比べ、D，G 地点で40%強と専業主婦が少ないので、仕事の関係で郵便局に行く人が多かったためであると考えられる。いずれにしても、昼間歩いている人の多くは専業主婦であると言えよう。年齢については、様々な年齢層の人が歩行している。その中で、DとF 地点は、他の地点に比べ、60歳以上の人人が少ない。D，F 地点は緑化未整備道路の同一線上にあり、商店から

離れ目的となる物がないことから、老人が歩行することは稀になっていると考えられる。その他の属性については、あまり特徴的なことは言えない。

### 3-2 歩行者の地域環境に対する意識 [調査項目1]

#### 3-2-1 目的

本項目は、歩行者の地域環境に対する関心と問題意識及び歩行目的に関するものであり、下記の点から検討する。

- 1) 歩行者が地域環境をどれだけ意識し、各地点をどのような目的で歩行しているのかを把握することによって、各歩行空間におけるそれらの違いを明らかにする。
- 2) 歩行者と居住者で、地域環境に対する意識に違いがあるかどうかを比較する。

#### 3-2-2 質問項目

この項目は下記の3つの質問により構成されている。

- 1) F 6 地域環境に対する関心度
- 2) Q 11 地域環境に対する問題意識
  - (1) 生活優先的意見に対して
  - (2) 行政依存的意見に対して
  - (3) 無力感的意見に対して
- 3) Q 2 対象歩行空間における歩行目的

歩行者の場合、居住場所が本調査対象地区とは限らないため、本調査対象地区をどれだけ認識しているかはまちまちである。従って、地域環境に対する意識を深く聞くことはできない。

そこで、F 6とQ 11で地域環境に対する関心度と問題意識を、Q 2で歩行目的を質問するだけにとどめている。

#### 3-2-3 結果と考察

##### a. 地域環境に対する関心度及び問題意識

図 I - 4 5 は地域環境に対する関心度の地点別集計結果を示す。また、

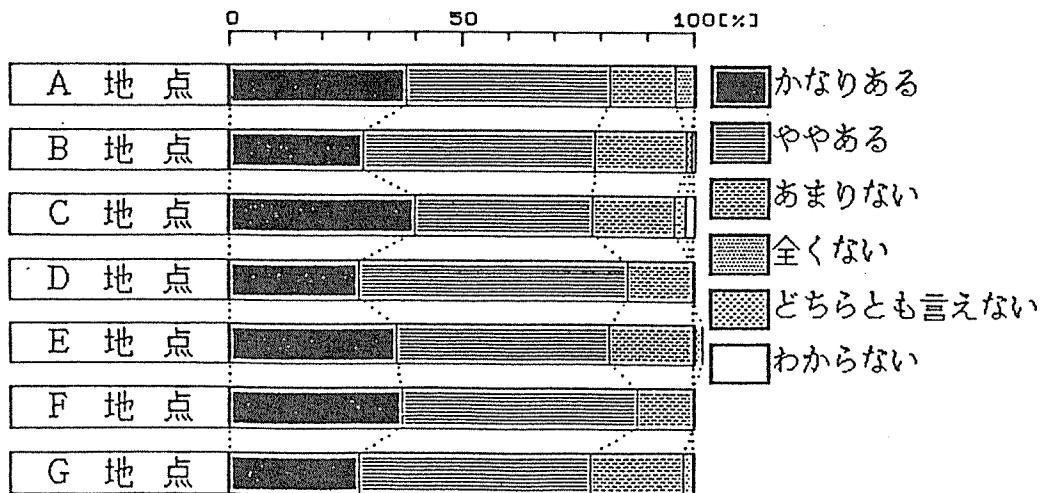


図 I - 4 5 地域環境に対する関心度の地点別集計結果

図 I - 4 6 ~ 4 8 は、地域環境に対する問題意識の反映として、3つの意見に対する賛否の地点別集計結果を示す。

地域環境に対する関心度に関して、かなりあるとややあると答えた人を合わせると、7地点とも80%前後になり、7地点における違いは認められず、地域環境に対する関心の高さを示す。また、居住者においても約75%の人が関心を持っており、歩行者も居住者も同程度の関心の高さを示す。

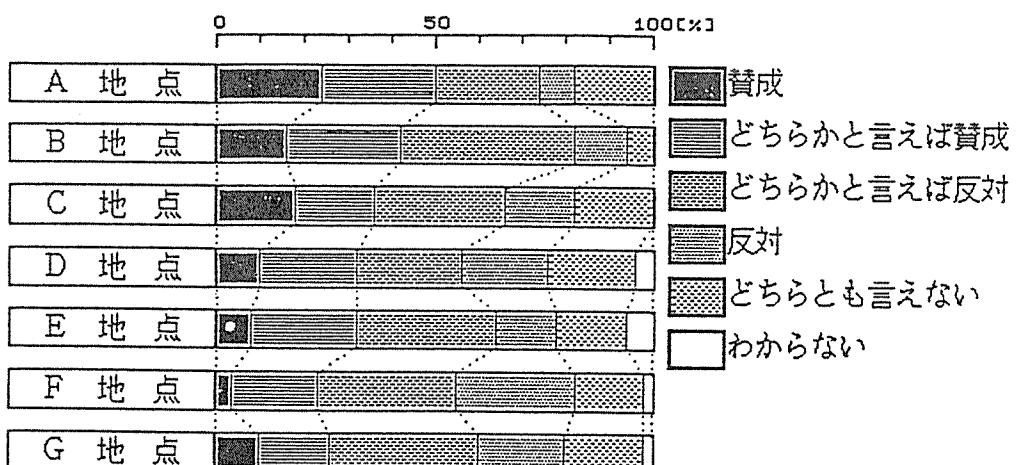


図 I - 4 6 地域環境に対する問題意識の地点別集計結果  
生活優先的意見について

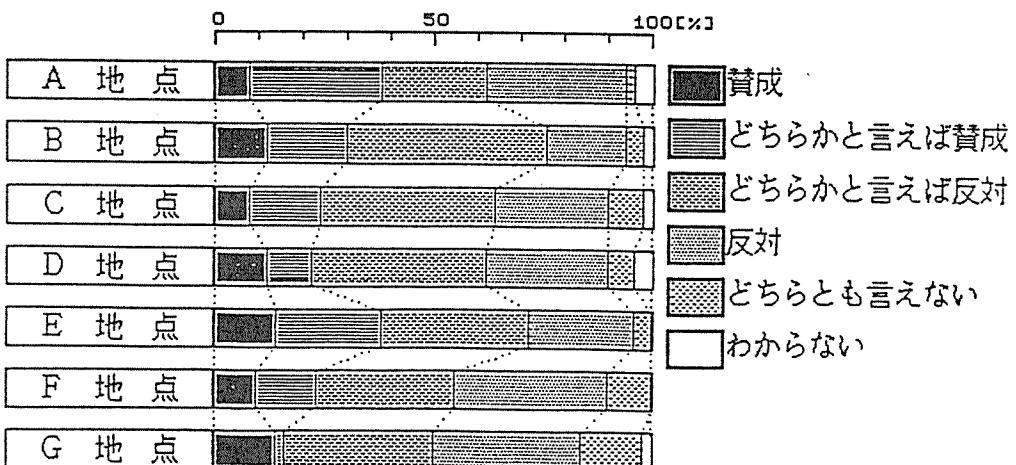


図 I - 4 7 地域環境に対する問題意識の地点別集計結果  
行政依存的意見について

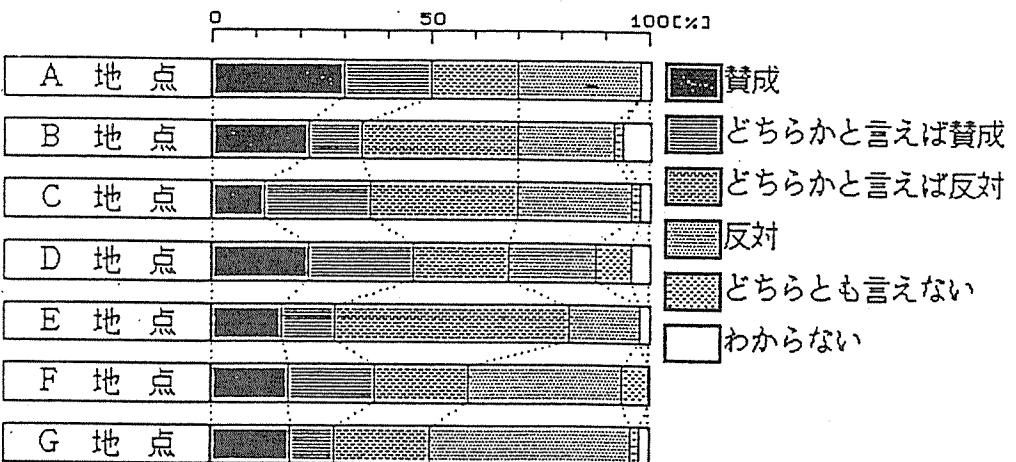


図 I - 4 8 地域環境に対する問題意識の地点別集計結果  
無力感的意見について

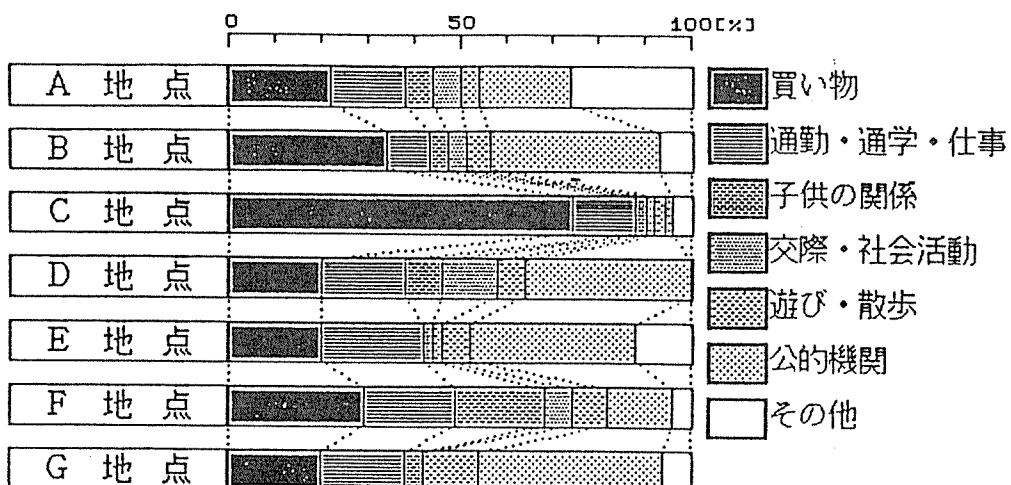
地域環境に対する問題意識に関し、生活優先的意見については、A，F，G 地点を除き、賛成側の回答が30~40%で、反対側の回答が45~50%である。行政依存的意見については、A，E，G 地点を除き、それぞれ20~30%と65%前後である。無力感的意見については、A，D，E，G 地点を除き、それぞれ35%前後と60%前後である。このように、3つの意見すべてにおいて反対が上回っている。特に、生活優先的意見と無力感的意見

に対しては、居住者より歩行者の方が反対傾向が強い。但し、3つの意見に対し、A地点は他の地点に比べて賛成側の回答が多く、G地点は反対側の回答が多い。従って、全体として地域環境に対する問題意識は強いが、A地点ではそれが弱く、G地点では特に強い。この理由は定かではないが、回答者の年齢構成（表I-25参照）の違いを見ると、A地点では50歳以上の人が多いのに対し、G地点では20～30歳代の若い年齢層が多く、その影響が考えられる。

これらのことから、居住者よりも歩行者の方が、地域環境に対する問題意識は強い傾向にあることを示している。

#### b. 歩行目的

図I-49は歩行者の歩行目的を地点別に示したものである。



図I-49 歩行目的の地点別集計結果

A地点は、他の地点に比べ、その他が26%と多く、その他は主に医者・病院への通院である。B地点は、買い物と郵便局、銀行、役所等への公的機関へ行くと答えた人が、それぞれ35%前後で同程度に多い。C地点は買い物と答えた人が70%以上を占め、他のどの地点よりも多い。D、E、G地点はほぼ同じ傾向を示し、公的機関へ行くと答えた人が約40%を占める。F地点は、他の地点に比べ、その目的が多様である。C地点の調査場

所はマツザカヤの前であり、当然その利用を目的として歩いている人が殆どである。A 地点の近くには病院があり、D , E , G 地点の先には郵便局があり、それらを目的に歩いている人が多い。B 地点はマツザカヤと郵便局の中間に位置し、歩行目的もそれらを2分している。F 地点は公園の前であるが、明確な目的を有する対象物がなく、それが歩行目的にも現れている。従って、目的が明確な対象物の距離によって、各対象歩行空間の歩行目的は対応することが示される。

### 3 - 2 - 4 要約

地域環境に対する関心度は、居住者と同様に歩行者も高い。問題意識に関しては、居住者よりも歩行者の方が強い傾向にあり、歩行者の地域環境に対する意識が高いことが伺える。

歩行者の歩行目的に関して、商店や郵便局のように目的が明確な対象物との距離によって歩行目的も対応し、近いとその目的を持った人が多くなり、遠いと少なくなる。従って、明確な目的を有する物がない歩行空間においては、歩行者の目的は多岐にわたることが示唆される。その例が森町公園前であり、公園として人が利用する機能を果していないのは問題である。

## 3 - 3 行動特性を背景とした歩行の実態 [調査項目 2 ]

### 3 - 3 - 1 目的

本項目は、地域内における歩行者の行動特性を背景とした、歩行に対する態度構造に関するものであり、下記の点から検討する。

- 1) 各地点における歩行者の行動範囲及びその特性を捉え、各歩行空間におけるそれらの違いを明らかにする。
- 2) 実際に歩行している人と居住者との行動特性の違いを比較する。

### 3 - 3 - 2 質問項目

この項目は、居住者に対する意識調査と全く同じ質問項目にし、下記の5つの質問により構成されている。

- 1) Q 3 駅からの電車の利用

(1) JR 磯子駅

(2) 京浜急行屏風ヶ浦駅

2) Q 4 駅前周辺の商店の利用

(1) JR 磯子駅方面の商店

(2) 京浜急行屏風ヶ浦駅方面の商店

(3) その他の商店

3) Q 5 バスの利用

4) Q 7 マイカーの保有と運転

5) Q 6 散歩・ジョギング

3 - 3 - 3 結果と考察

a. 駅からの電車の利用

図 I - 50, 51 は、それぞれ JR 磯子駅と京浜急行屏風ヶ浦駅からの電車の利用における地点別集計結果を示したものである。

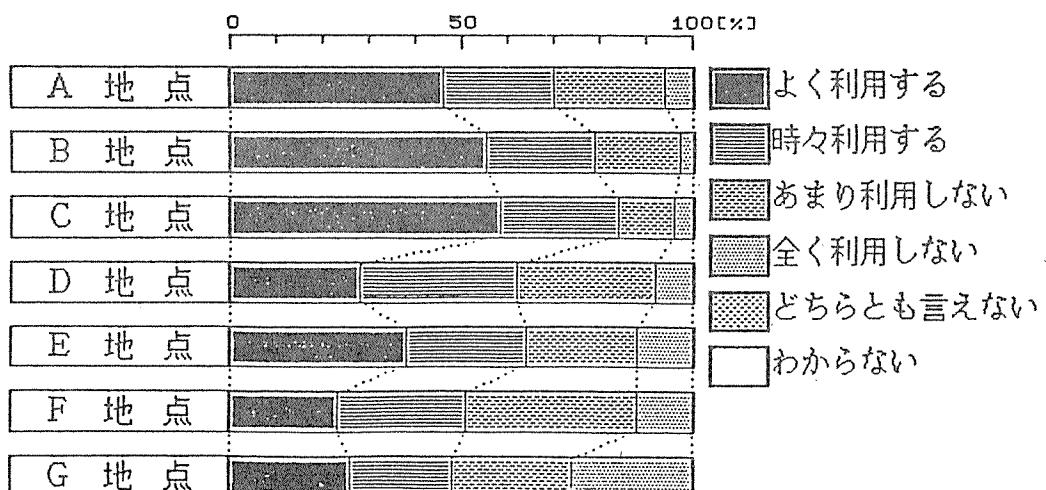


図 I - 50 JR 磯子駅からの電車の利用

JR 磯子駅から電車をよく利用すると時々利用すると答えた人を合わせると、A, B, C 地点ではそれぞれ 70%, 79%, 84% と高く、次いで D, E 地点が 60% 強で、F, G 地点が 50% 前後であり、駅から離れるに従って利用率も低下している。一方、京急屏風ヶ浦駅からの電車の利用率は、A, D, E 地点が 50% 強で、B, C, F, G 地点が 40% 強であり、これも

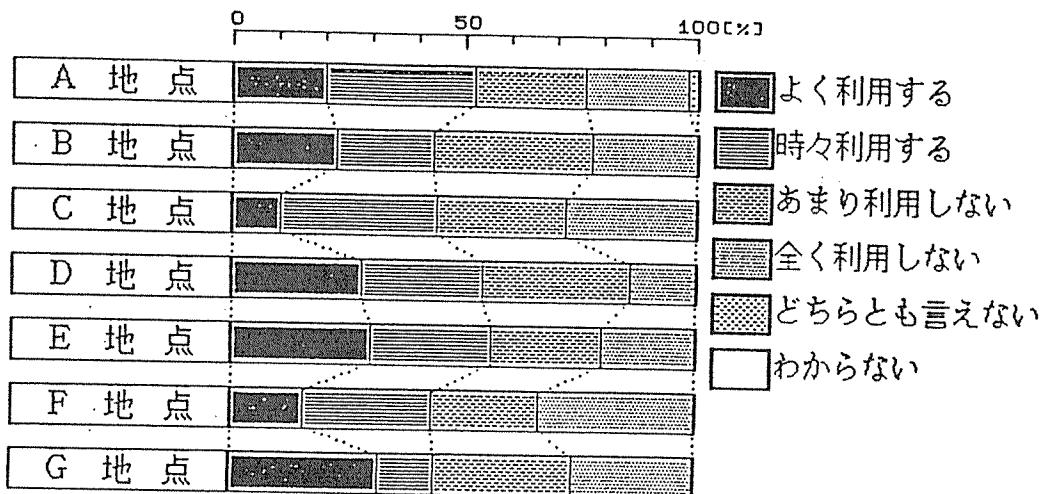


図 I - 5 1 京急屏風ヶ浦駅からの電車の利用

駅から離れると利用率は低下する。しかし、どの地点でも J R 磯子駅からの電車の利用率の方が京急屏風ヶ浦駅からのそれより高く、居住者調査の結果と同様に、歩行者も産業道路沿いを歩行する機会の多いことが示唆される。

#### b . 駅前周辺の商店の利用

図 I - 5 2 ~ 5 4 は、それぞれ J R 磯子駅方面と京浜急行屏風ヶ浦駅方面及びその他の商店の利用における地点別集計結果を示す。

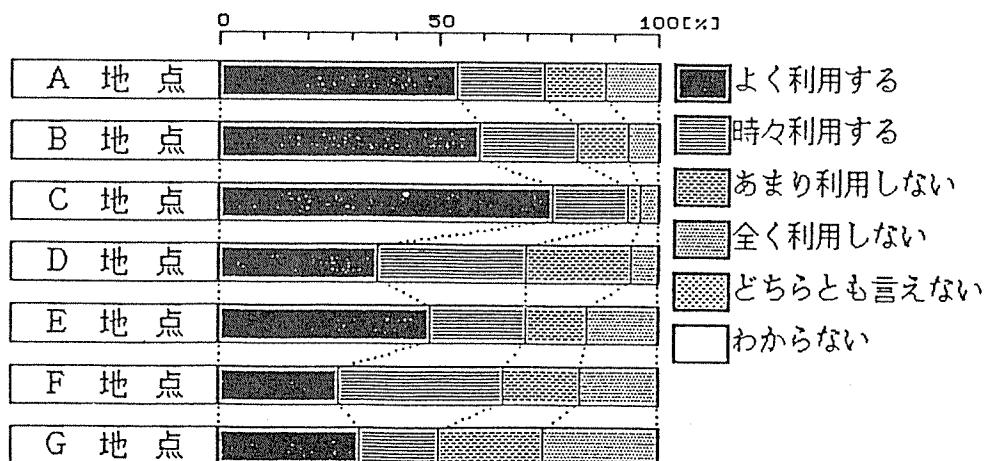


図 I - 5 2 J R 磯子駅方面の商店の利用

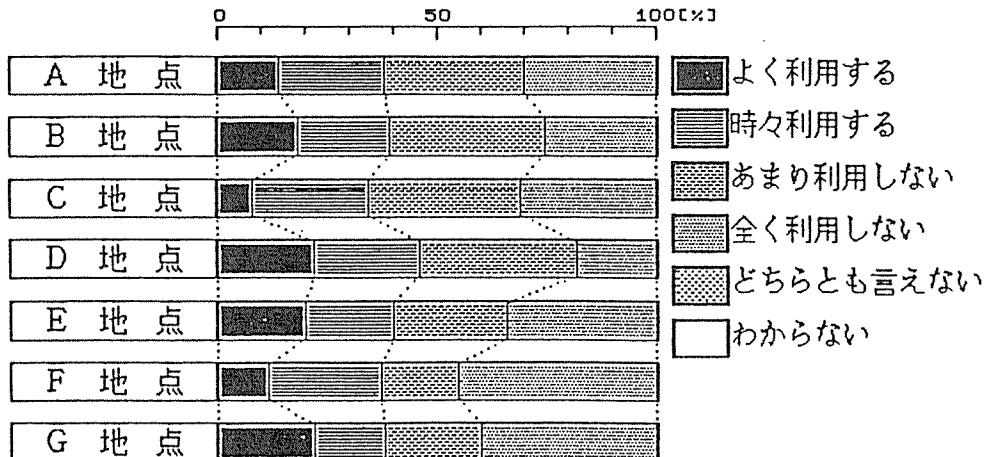


図 I - 5 3 京急屏風ヶ浦駅方面の商店の利用

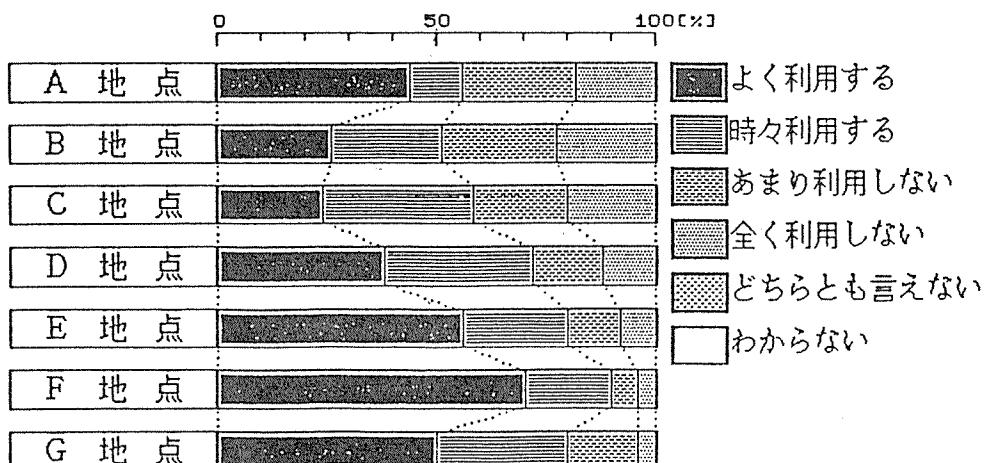


図 I - 5 4 その他の商店の利用

J R 磯子駅方面の商店をよく利用すると時々利用すると答えた人を合わせると、A , B , C 地点ではそれぞれ74% , 82% , 93% 、D , E 地点では70% 、F , G 地点ではそれぞれ65% , 50% と、その傾向は電車の利用とほぼ同じである。一方、京急屏風ヶ浦駅方面のそれは、どの地点も40% 前後であり差がない。商店の利用に関しても、電車の利用と同様、J R 磯子駅方面の方が京急屏風ヶ浦駅方面の商店より利用率が高いことを示す。但し、その他の商店の利用率は、A , B , C 地点が55% 前後であるのに対

し、D, E, F, G 地点ではそれぞれ 72%, 80%, 90%, 80% と J R 磐子駅方面のそれより明らかに高く、D, E, F, G 地点の方が A, B, C 地点を通る歩行者より行動範囲が広いことを示す。

#### c. バス及びマイカーの利用

バスの利用に関しては、よく利用すると時々利用すると答えた人を合わせると、A, D, E 地点で 70% 前後、B, C, F 地点で 50% 前後、G 地点で 38% と、A, D, E 地点でのバスの利用率が高い。これは、その 3 地点の周辺にバス停があることからも当然の結果と言えよう。

マイカーの利用に関しては、マイカーを運転できないか或いは運転しない人を合わせると、どの地点も 80% 以上である。居住者調査の結果と同様に、歩行者もマイカーの利用が非常に少ないことを示す。

#### d. 地域内における散歩・ジョギング

図 I - 5 5 はこの地域内で散歩やジョギングをするかどうかの地点別集計結果を、図 I - 5 6 は B, C 地点におけるその 3 回調査別集計結果を示す。

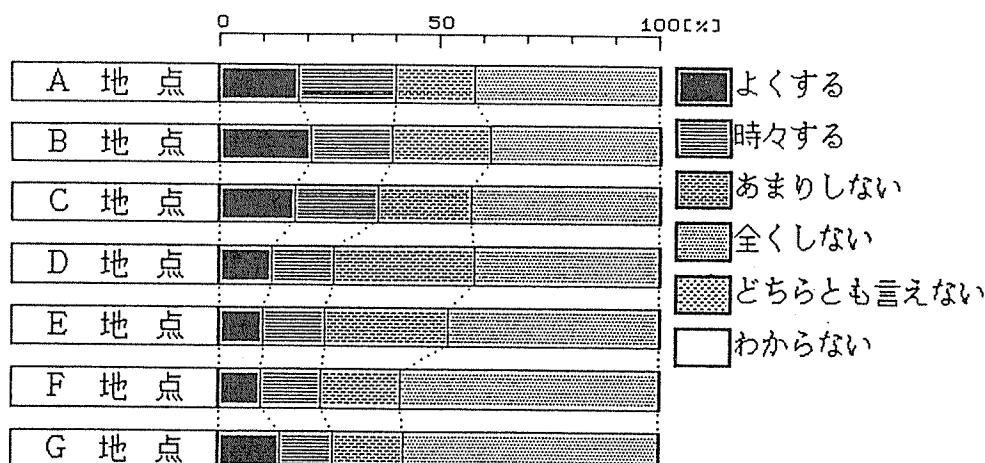


図 I - 5 5 散歩・ジョギングの地点別集計結果

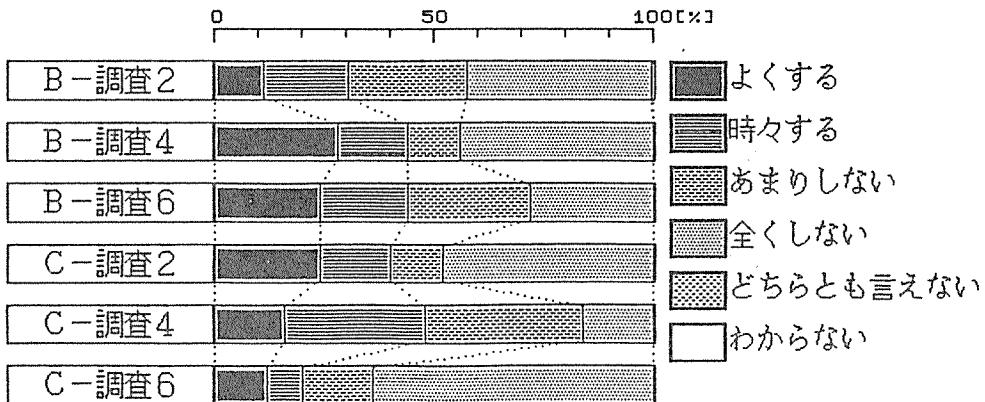


図 I - 5 6 散歩・ジョギングのB, C地点における調査別集計結果

地点別では、散歩などをよくすると時々すると答えた人を合わせると、A, B, C地点では40%弱、D, E, F, G地点では25%前後であり、既存緑化道路及び緑化事業道路の方が、緑化未整備道路の歩道を通る歩行者より、散歩などをする人が多いことを示している。但し、各地点における回答者の居住地域（表 I - 2 3 参照）を見ると、前者の方が後者の地点より磯子区森町内に居住する人が多く、それが影響していることも十分に考えられる。いずれにしても、A, B, C地点を含む歩行空間が生活道路の中心であることは確かである。尚、居住者調査ではそれが約20%であり、居住者より歩行者の方が散歩などをする人が多い。歩行者調査は実際に歩いている人を対象としているので、当然の結果と言えよう。

調査別に見ると、B地点において散歩などをよくする或いは時々すると答えた人は、調査Ⅱで30%であったものが、調査Ⅳ, Ⅵでは40%強に増加している。C地点では、調査Ⅱ, Ⅳで40%以上だったものが、調査Ⅵで20%に減少している。これは居住者調査の結果と異なるものであり、B地点の歩行者においては、植樹帯設置後、散歩をすると言う人が多く歩行するようになっていることを示す。

### 3 - 3 - 4 要約

各地点における歩行者の歩行目的の結果と同様に、商店や交通機関の利

用率も、その歩行空間と対象目的との距離に対応し、対象目的に近いほど利用率も高い。全体的に見て、地域内における行動特性は歩行者に対する調査も居住者に対する調査結果と似た回答傾向を示しており、電車の利用も商店の利用も京浜急行屏風ヶ浦駅方面よりＪＲ磯子駅方面への流れが大きく、交通機関としてマイカーの利用より電車やバスの利用率の方が高い。但し、居住者より歩行者の方が、また、緑化未整備道路より既存緑化道路及び緑化事業道路上の歩行者の方が散歩をすると言う人が多い。特に、小学校運動場前の歩行空間においては、植樹帯設置後、散歩をすると言う人が多く歩行するようになっている。

### 3-4 歩行空間（A～G地点）のイメージ [調査項目3]

#### 3-4-1 目的

本項目は、実際に当該道路周辺を歩行している歩行者の歩行空間に対するイメージを知るため、居住者調査と同じ手法を用い、A～G地点の7つの歩行空間に対するイメージを評定させ、下記の点から検討する。尚、この項目も、植樹帯設置前後の歩行空間に対する意識を反映させるものとして重要である。

- 1) 歩行者の各地点の歩行空間に対するイメージ構造を把握し、各地点におけるイメージの違いを見る。
- 2) 緑化事業道路に植樹帯が設置される前後及び1年後の、小学校運動場前と既存緑化道路にあるマツザカヤ前の歩行空間におけるイメージ変化を知る。
- 3) 前記2地点における居住者と実際の歩行者とのイメージの違い、及び実験室実験との違いを検討する。
- 4) これらから、植樹帯の設置による影響、及びその効果を明らかにする。

#### 3-4-2 調査方法

##### a. 手法

この項目も、居住者調査と同様ＳＤ法を用い、各地点においてその歩行空間に対するイメージを7段階評定の8形容詞対によって評定してもら

う。但し、居住者調査の場合地図と写真により対象歩行空間を想像してもらつたが、この歩行者調査においては実際にその地点に立つて対象歩行空間のイメージを評定してもらう点が大きく異なる。

#### b . 手続

調査員は回答者に「この地点をどのように思いますか。」と尋ね、その地点のイメージを質問票を見ながら答えてもらう。

#### c . 調査対象地点

表 I - 2 9 に A ~ G の 7 地点の概要を、図 I - 5 7 にその地図を示す。

表 I - 2 9 調査対象地点 (A ~ G 地点)

地點 記号	地 点 名	道 路 緑 化 状 況
A	森町ビル前	綠化事業道路
B	小学校運動場前	
C	マツザカヤ前	既存綠化道路
D	共同ビル前	
E	磯子車庫前	綠化未整備道路
F	森町公園前	
G	磯子郵便局前	

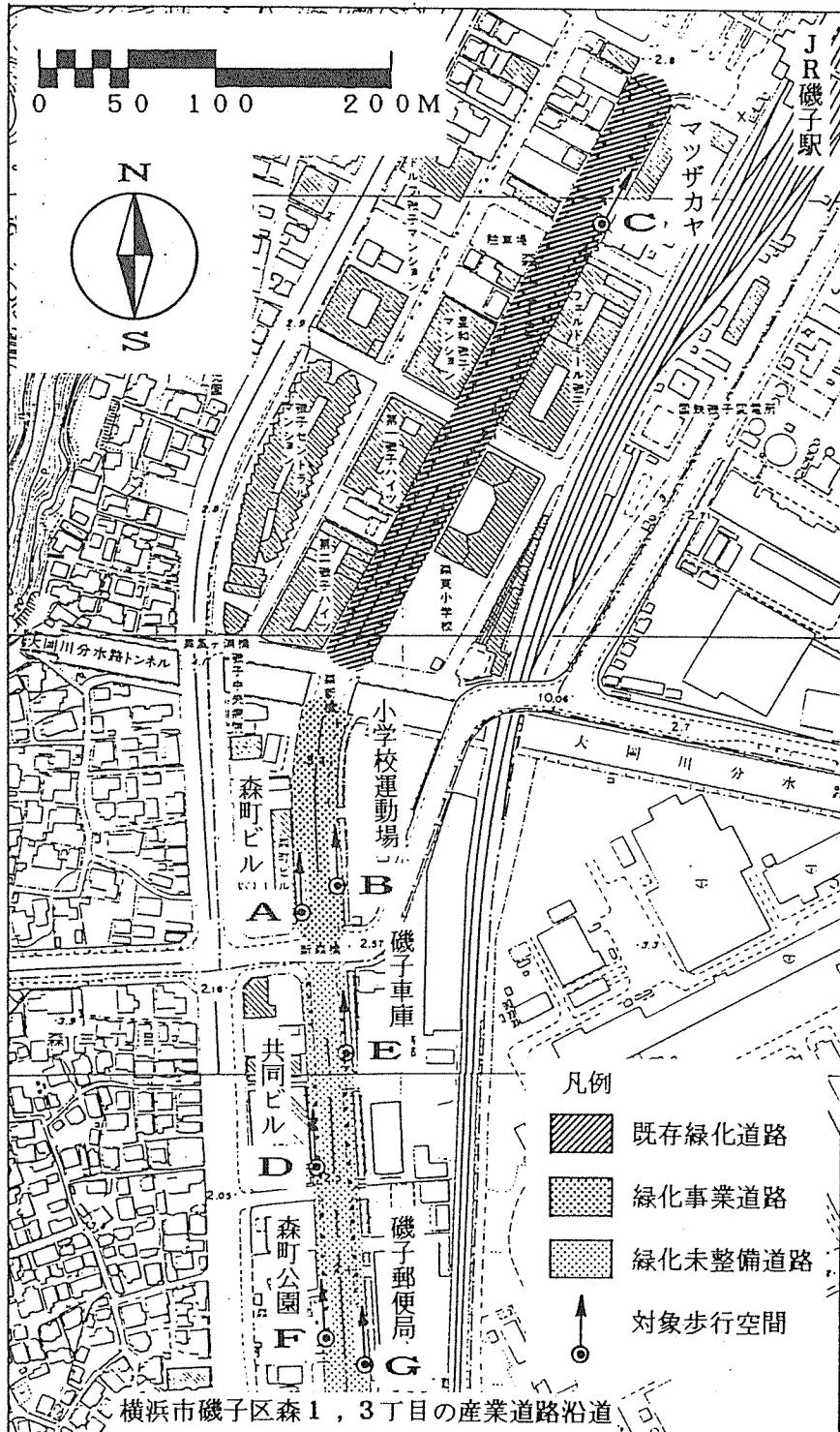


図 I - 57 調査地点 (A ~ G 地点)

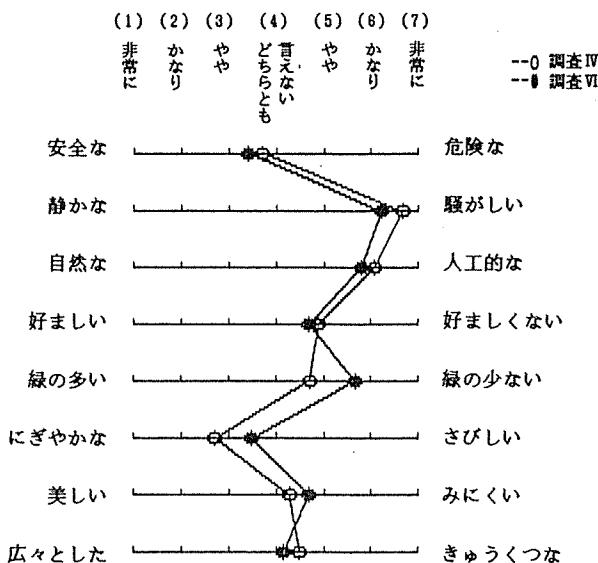
#### d . 評定尺度

評定尺度は、居住者調査の結果と比較可能にするため、全く同じ7段階評定の8形容詞対によって構成される。（表I-16参照）

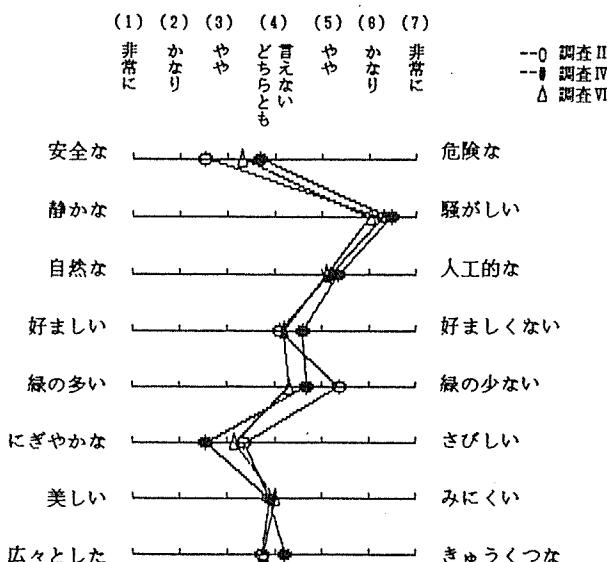
#### 3-4-3 結果と考察

##### a . 歩行空間に対するイメージ

図I-58～64は、それぞれA～G地点の7つの歩行空間における調査別イメージプロフィールを示す。



図I-58 A地点の調査別イメージプロフィール



図I-59 B地点の調査別イメージプロフィール

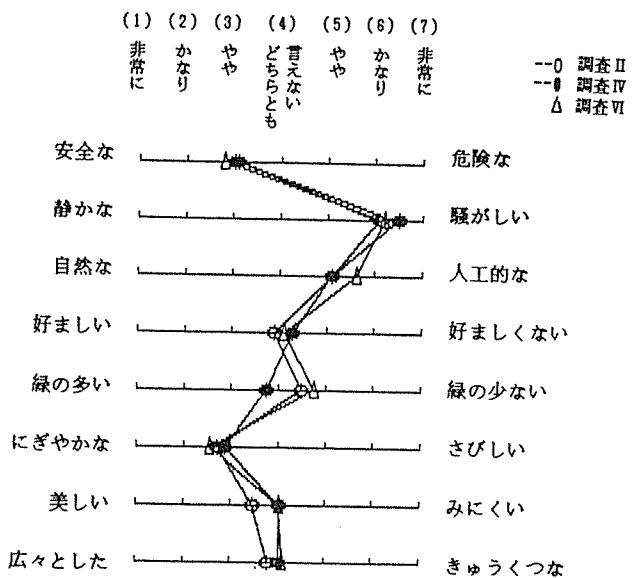


図 I - 6 0 C 地点の調査別イメージプロフィール

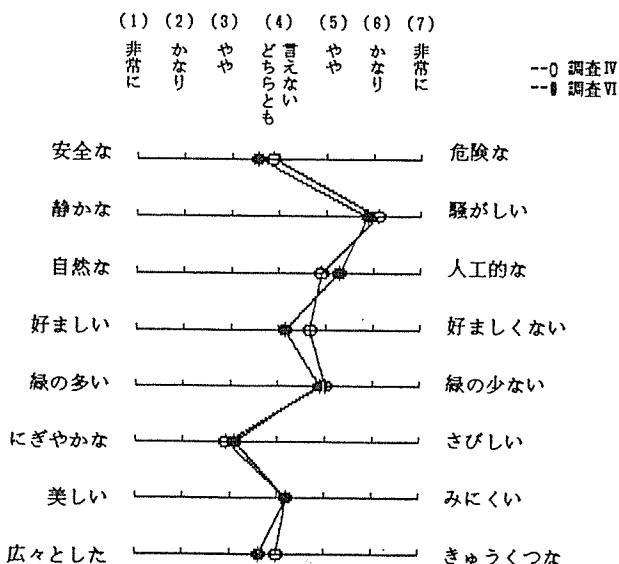


図 I - 6 1 D 地点の調査別イメージプロフィール

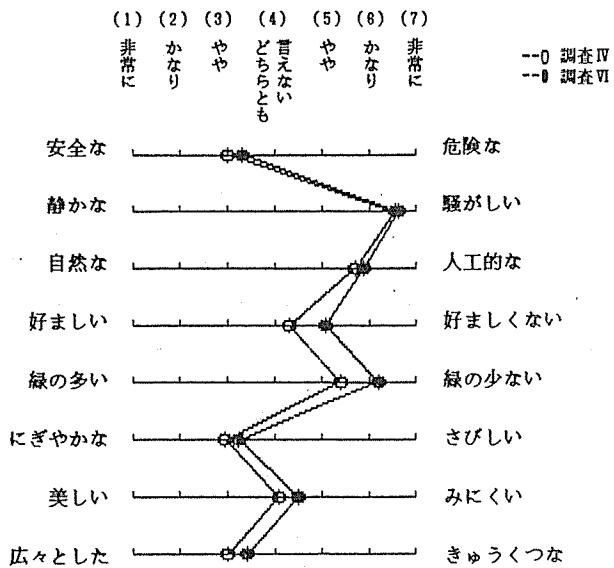


図 I - 6 2 E 地点の調査別イメージプロフィール

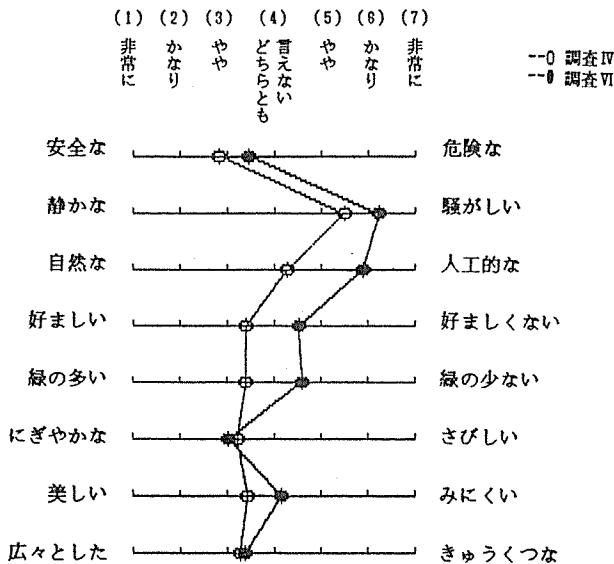


図 I - 6 3 F 地点の調査別イメージプロフィール

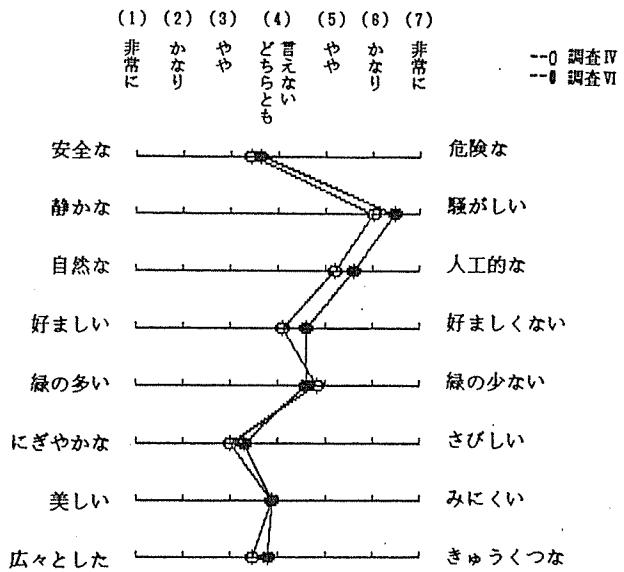


図 I - 6 4 G 地点の調査別イメージプロフィール

A 地点については、非常に騒がしくかなり人工的でやや好ましくなく緑が少ないが、ややにぎやかでわずかに安全なイメージを持っている。但し、調査IVに比べ、調査VIでは緑の少ないイメージが強くなり、にぎやかなイメージが低下している。

B 地点については、かなり騒がしくやや人工的で緑が少ないが、やや安全でにぎやかなイメージを持っている。但し、調査IIに比べ、調査IV, VIでは緑の少ないイメージは緩和されているが、安全なイメージは低下している。また、調査IVだけにぎやかなイメージが強い。

C 地点については、かなり騒がしくやや人工的であるが、やや安全でにぎやかなイメージを持っている。但し、調査IVだけ緑の多少に関するイメージは向上している。

D 地点については、かなり騒がしくやや人工的で緑が少ないが、ややにぎやかでわずかに安全で広々としたイメージを持っている。また、この地点は調査IV, VIで殆ど変化が見られない。

E 地点については、非常に騒がしくかなり人工的で緑が少なくやや好ましくないが、やや安全でにぎやかで広々としたイメージを持っている。但

し、調査Ⅳに比べ、調査Ⅶでは緑の少ないイメージと好ましくないイメージが強くなっている。

F 地点については、かなり騒がしくやや人工的であるが、やや安全でにぎやかで広々としてわずかに美しいイメージを持っている。但し、調査Ⅳに比べ、調査Ⅶではにぎやかさと圧迫感を除くすべてのイメージが悪化している。この地点は緑化未整備道路であるが、公園前であるため7地点中最も緑が多い。ところが、調査Ⅳは夏期、調査Ⅶは冬期の調査であったため緑の生育状態が異り、季節差がイメージに大きく影響したことが考えられる。

G 地点については、かなり騒がしくやや人工的で緑が少ないが、ややにぎやかでわずかに安全で広々としたイメージを持っている。また、この地点も調査Ⅳ、Ⅶで殆ど変化が見られない。

以上のことから、7地点の歩行空間に対する歩行者のイメージに関して共通している点は、居住者のそれと同様に、程度の差はあるものの騒がしく人工的な負のイメージと安全な正のイメージで捉えられ、好ましさや美しさという評価に関するイメージは中庸にあることが示される。但し、7地点ともややにぎやかなイメージで捉えられているが、これは人通りの多少からだけではなく、道路交通騒音の騒がしさによるものも含まれていると考えられ、一概に正のイメージとは言えない。また、実際に植樹帯を含む緑のあるC地点やF地点は、緑のないE地点より緑の多少に対するイメージは良く、全体的なイメージも前者の方が明らかに良い。しかし、植樹帯が設置されたA地点のイメージは、C、F地点ほど良くないことも示唆され、緑化の課題が残る。

#### b . 植樹帯設置直後及びその1年後におけるイメージ変化

図I-65、66は、それぞれB、C地点における植樹帯設置前（調査Ⅱ）を基準とした時の設置後（調査Ⅳ）及び1年後（調査Ⅶ）のイメージ変化量を示したものである。

B 地点については、植樹帯が設置されたことにより、歩行者も緑が多くなったことを認めている。しかし、安全なイメージは悪化している。この

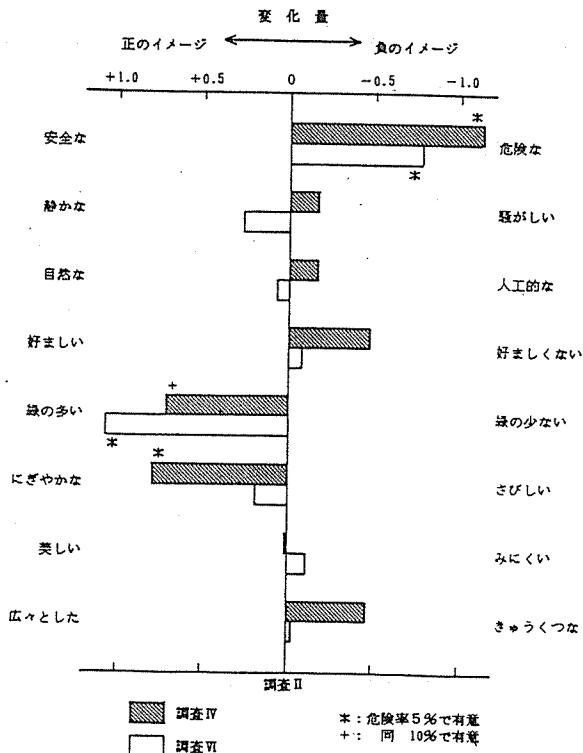


図 I - 65 B 地点の3回調査におけるイメージ変化

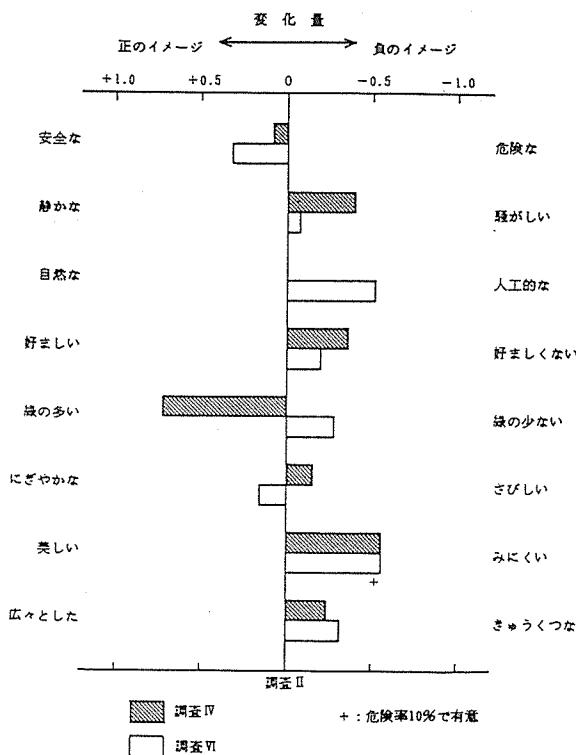


図 I - 66 C 地点の3回調査におけるイメージ変化

理由はイメージ調査だけではわからないので、次節の歩行空間の問題点をC地点と比較しながら検討する。また、調査IVでにぎやかさのイメージが向上している。尚、その他のイメージに関しては有意な差が認められず、特に美しさのイメージは全く変化していない。

C地点には既に植樹帯があり、イメージ変化が有意なもののは殆ど見られない。その中で、美しさのイメージが悪化する傾向にあり、その理由は定かではない。

これらのことから、居住者調査の結果と同様に、歩行者にとっても植樹帯の設置は緑が増したことに対する認識を強める効果を持つことが明らかとなった。また、植樹帯の設置による歩道幅員の減少があっても、圧迫感を与えないことも明らかとなった。しかし、居住者のそれと異なり、歩行者には植樹帯の設置が安全性を阻害することを示唆し、歩行者の歩行空間に対するイメージはより現場に即応していると考えられる。

#### c . 居住者調査、歩行者インタビュー調査及び実験室心理実験におけるイメージの違い

予備調査として、植樹帯設置3ヶ月前に実験室実験を行っている。これは、B , C地点を対象としたスライドを視覚情報とし、静 ( $L_{eq} = 52dB A$ )・騒 ( $L_{eq} = 58dB A$ ) 2条件の道路交通騒音を聴覚情報とし、両情報を同時に呈示した時のイメージをSD法を用いて評定させたものである。尚、被験者は横浜国大建築学科の学生38名である。図I-67はその結果をB , C地点の静・騒2条件におけるイメージプロフィールで示したものである。

これを見ると、B地点とC地点の差が明確に現れており、C地点が中庸のイメージであるのに対し、B地点はすべての形容詞対において負のイメージである。一方、呈示騒音レベルが両条件間で6dBの差があるにも関わらず、評定値の差はあまり見られない。実験室実験においては、呈示音レベルの差より場所の違いによる影響の方がイメージ形成に大きく寄与し、B地点よりC地点の方が良いイメージであることを明らかにしていく。

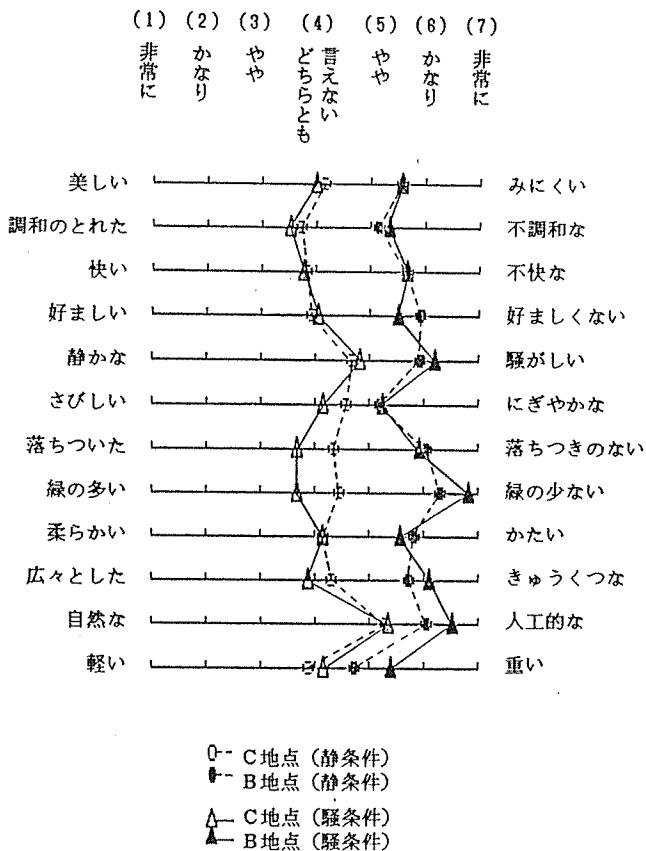


図 I - 67 B , C 地点の実験室実験におけるイメージプロフィール

図 I - 68 , 69 は、それぞれ植樹帯設置前における B , C 地点のイメージプロフィールを、居住者と歩行者及び実験室実験別に示したものである。

居住者と歩行者の歩行空間に対するイメージで差があるのは、B 地点では「静かな - 騒がしい」と「にぎやかな - さびしい」尺度、C 地点では「静かな - 騒がしい」尺度であり、歩行者の方が騒がしくにぎやかに感じている。しかし、その他のイメージはその傾向が似ており、特に C 地点の

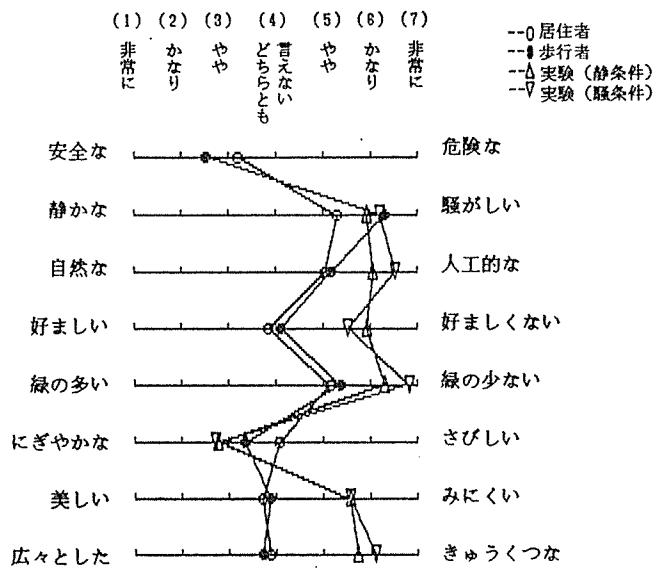


図 I - 6 8 B 地点の居住者，歩行者，実験別イメージプロフィール

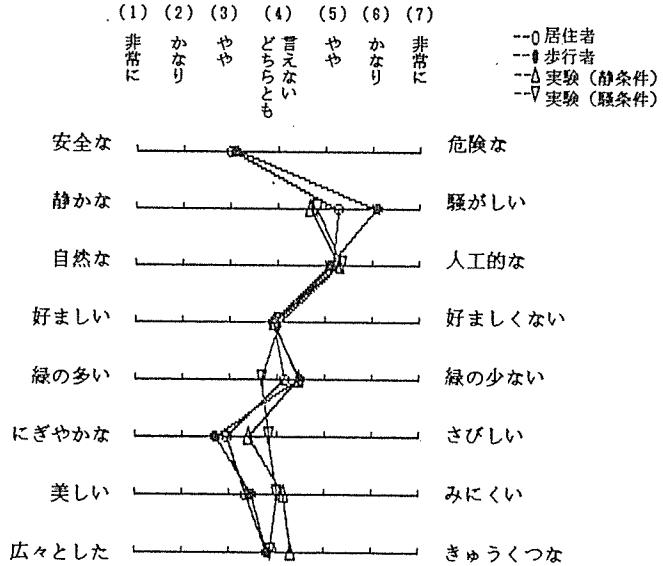


図 I - 6 9 C 地点の居住者，歩行者，実験別イメージプロフィール

それらはほぼ一致している。これは、C 地点の歩行空間のイメージが、その地域住民や歩行者にとって、ほぼ固定化されていることを示す。居住者と歩行者で音に対するイメージが異なるのは、対象地点の道路交通騒音レベルが  $L_{eq}$  で 77dBA と極めて高く、実際にそこに立ってイメージを評定している歩行者の方が現実場面の影響を強く受けることを示している。一方、実験室実験においては、C 地点のイメージは居住者と歩行者のそれと傾向が似ているが、B 地点のイメージは「静かな－騒がしい」と「にぎやかな－さびしい」尺度を除くすべてが悪いイメージである。実験室実験においては、それらの場所を全く知らない被験者にとって、それぞれの歩行空間に対する情報として視・聴覚情報しかなく、それに敏感に反応しイメージを形成する。そのため、植樹帯の有無を主な評価基準として、植樹帯が設置されていない B 地点より植樹帯のある C 地点の方を高く評価する。しかし、居住者や歩行者はその地域全体の情報を統合し、その部分として歩行空間のイメージを形成する。そのため、地点間におけるイメージの差が少なくなると共に、あまり極端な評価をしなくなる。このことから、実験室実験では縁があると歩行空間の評価が安定し、その評価は居住者や歩行者のように現場での歩行空間に対する評価に近づくことが示唆される。

### 3 - 4 - 4 要約

7 地点を対象とした歩行空間は、全体的に騒がしく人工的ではあるが、安全なイメージを歩行者に与えており、居住者も歩行者もある程度固定した共通のイメージを持っている。しかし、騒がしさとにぎやかさという音に関するイメージは、現場に立っている歩行者の方が居住者より厳しい評価をすることが示される。その中で、マツザカヤ前や森町公園前の歩行空間は、植樹帯などの縁が他の地点よりあり、全く縁のない磯子車庫前のそれより良いイメージである。しかし、植樹帯が設置された森町ビル前や小学校運動場前の歩行空間はその程度までには至っておらず、もっと縁をふやす必要がある。

歩行者を対象とした調査においても、居住者調査の結果と同様に、植樹

帶が設置されたことにより歩行空間の縁が多くなったことを認める効果と、植樹帯により歩道幅員が減少しても圧迫感が現れないことが明らかとなった。しかし、居住者のそれと異なり、小学校運動場前の歩行空間においては、安全に対するイメージが悪くなっている。この理由はイメージ調査だけではわからないので、次節の歩行空間に対する問題点をマツザカヤ前の歩行空間と比較しながら検討する。

### 3-5 歩行空間（A～G地点）における実態 [調査項目4]

#### 3-5-1 目的

本項目は、前記7つの歩行空間における歩行頻度と問題意識、及び植樹帯に対する感想から見た実態に関するものであり、下記の点から検討する。

- 1) 各地点の歩行頻度と問題点及び植樹帯に対する感想から、7地点それぞれの実態及びその特性を把握する。
- 2) 緑化事業道路に植樹帯が設置される前後及び1年後の、小学校運動場前と既存緑化道路にあるマツザカヤ前の歩行空間における、歩行頻度と問題点の変化を知る。
- 3) それらから、植樹帯の設置による影響、及びその効果を明らかにする。

#### 3-5-2 質問項目

この項目は、下記の3つの質問項目により構成されている。

- 1) Q9-1 各地点の歩行頻度
- 2) Q9-2 各地点の歩行空間に対する問題点
- 3) Q10 各地点の植樹帯に対する感想

このうち、Q9-1とQ9-2は居住者に対する調査と同一項目である。歩行空間に対する問題点の項目は、表I-17を参照。また、調査IV、Vにおいては、「危ない」「うるさい」「きたない」と答えた人の指摘理由を質問している。Q10は、植樹帯の設置されていないE地点を除く、6地点の植樹帯に対するもので、調査IV、Vにおいて質問している。

### 3 - 5 - 3 結果と考察

#### a . 歩行頻度

図 I - 7 0 は歩行頻度の地点別集計結果を、図 I - 7 1 は B , C 地点におけるその 3 回調査別集計結果を示す。

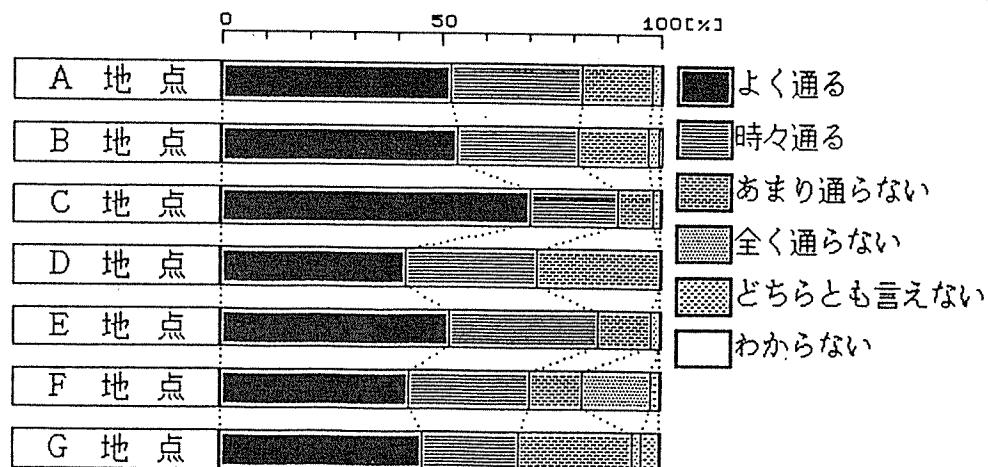


図 I - 7 0 各地点の歩行頻度

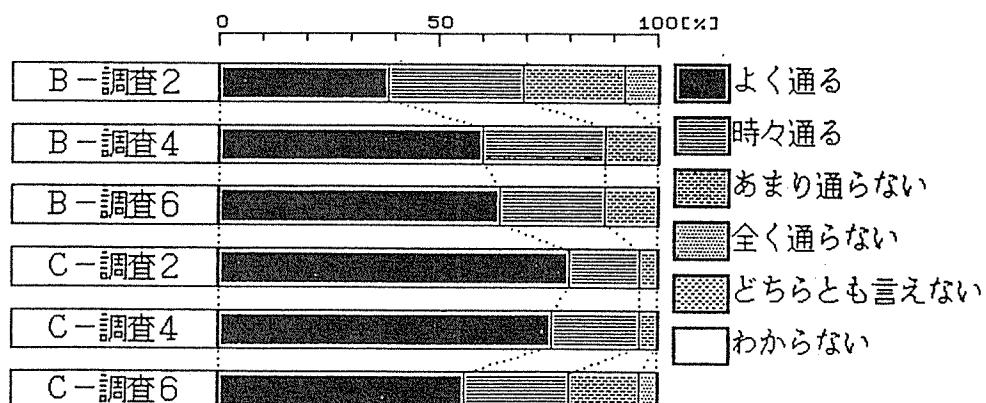


図 I - 7 1 B , C 地点の歩行頻度の調査別集計結果

地点別では、よく通ると時々通ると答えた人を合わせると、A, B, C, E 地点が80%以上で、D, F, G 地点が70%前後と、どの地点も歩行頻度が高い。特に、C 地点の歩行頻度は約90%と高く、JR 磯子駅とマツザカヤの前に位置することからも、この歩行空間の利用率の高さが裏付けられる。

調査別に見ると、B 地点をよく通る或いは時々通ると答えた人は、調査Ⅱで69%だったものが、調査Ⅳ, VIで88%に増加している。C 地点では、調査Ⅱ, IVで96%だったものが、調査VIで80%に減少している。これは、程度は異なるが、歩行者の散歩に対する回答傾向と同様であり、歩行者においては植樹帯の設置によりB 地点の歩行頻度が増したことを示す。

これらのことから、本調査対象歩行空間における歩行者の歩行頻度は高く、植樹帯の設置によって歩行頻度は増加する傾向にある。そもそも、居住者と歩行者では歩行に対する態度が違う。歩行者は当然歩いているため、活動的であり、歩行に対して積極的である。そのため、植樹帯が設置される前は止むを得ず通っていた歩行空間も、植樹帯が設置されたことによって、自ら選択してその歩行空間を通るようになったと考えられる。

#### b . 歩行空間に対する問題点

図I-72は各地点の歩行空間に対する問題点の指摘率分布を、図I-73はB, C 地点におけるその3回調査別指摘率分布を示す。

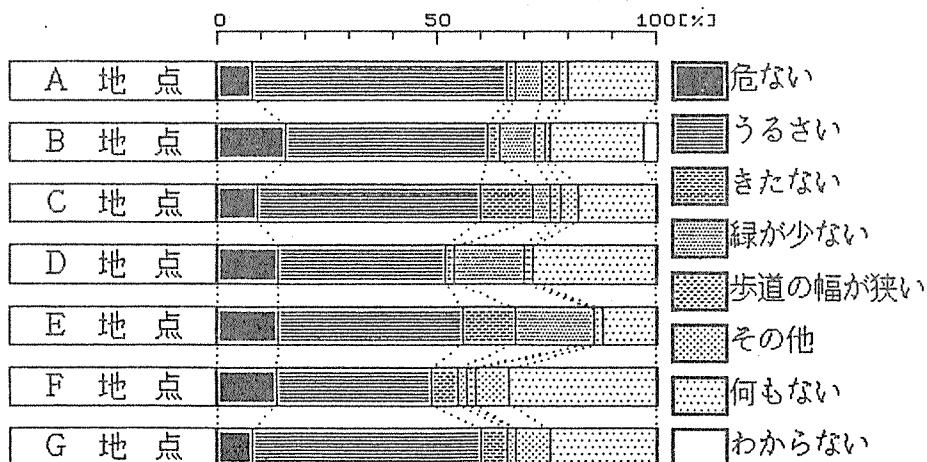


図 I - 72 各地点に対する問題点指摘率

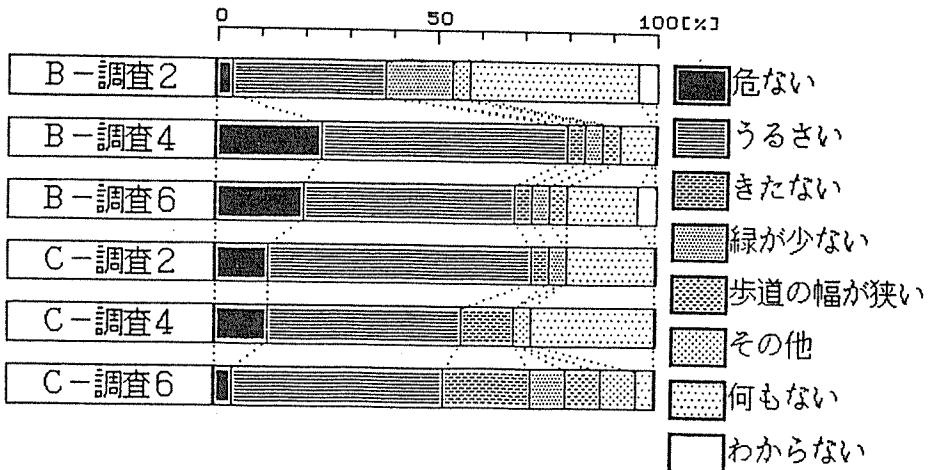


図 I - 73 B , C 地点に対する問題点の調査別指摘率

地点別では、7地点とも問題点として「うるさい」という指摘が最も多く、今までの結果からも明らかのように、この地域の問題は道路交通騒音である。また、「危ない」という指摘も10%前後あり、どの地点においても共通の問題である。問題点は何もないと答えている人は、F地点で33%であるのに対し、E地点では12%である。前者は公園前であるため緑も多いが、後者は緑が全くなく、その差が現れている。但し、D地点においても問題点は何もないと答えている人が30%弱おり、D, F地点が緑化未整備道路の同一線上にあることから、これら2地点に対する意識の低さも考えられる。C, E地点については「きたない」という指摘率が12%、D, E地点については「緑が少ない」という指摘率が17%前後と、他の地点に比べて高い。いずれにしても、E地点については問題が非常に多いことが明らかである。C地点については、居住者に対する調査と同様、歩行者も「きたない」と指摘しており、原因を明らかにして、改善する必要がある。

調査別に見ると、B地点では、調査Ⅱに比べて、調査Ⅳ, VIの問題点の指摘が増加している。その項目は、「うるさい」という指摘率が35%から50%前後に、「危ない」が4%から20%以上である。これは、植樹帯が設

置されて問題が増したと考えるよりも、むしろ散歩や歩行頻度がふえたことから、緑化されたことによってその地点に対する意識が高まったと考えられる。しかし、植樹帯設置後の「危ない」という指摘率の増加は、安全なイメージの悪化とも対応する。この理由は、車の右左折や交通量の多さなど、自動車交通に関するものが殆どである。「緑が少ない」という指摘率は15%から4%に減少しており、居住者調査の結果と同様、植樹帯の設置により緑に対する問題点が解消されていることを示す。C地点について調査Ⅱと調査Ⅳ、Ⅶを比較すると、「うるさい」という指摘率が60%から45%前後に減少しているのに対し、「きたない」のそれは4%から12%，20%と次第に増加している。居住者調査では問題点が「うるさい」から「危ない」に移行しているのに対し、歩行者調査では「うるさい」から「きたない」に移行している。

これらのことから、居住者調査の結果と同様に、7地点とも自動車騒音によるうるささの指摘が多く、植樹帯の設置により緑の少なさに対する問題が減少することが明らかとなった。植樹帯のないE地点は、問題点が最も多く、緑が少なくきたないと指摘が多い。C地点については、居住者も歩行者もきたないと指摘しており、その原因はゴミと舗装でのこぼこにある。B地点においては、植樹帯設置後、問題点指摘率が高くなっているが、これは緑化されたことによってこの地点に対する歩行者の意識が高まったとも言える。植樹帯設置後の危ないという指摘の増加は、安全に対するイメージの悪化と対応する。危ないという指摘理由は自動車交通に関するものであり、C地点に比べてB地点の植樹帯は密でなく、車の走行が見える状態であることから、却って歩行者の不安を招いたためと考えられる。

#### c . 植樹帯に対する感想

E地点を除く各地点において、植樹帯に対する感想を自由回答してもらい、それを肯定的と否定的及びその両方の意味を持つ感想に分類し、これを地点別に集計したものが図I-74である。

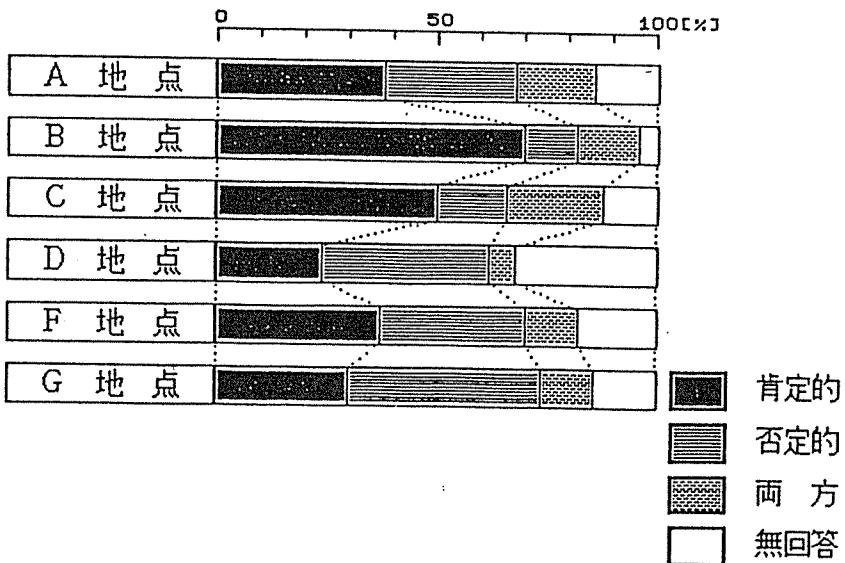


図 I - 74 各地点の植樹帯に対する感想

これを見ると、B，C 地点の植樹帯に対する肯定的な感想は、それぞれ 70%，50% と他の地点に比べて高く、特に B 地点においてそれが顕著である。A，F 地点のそれは、肯定的な感想と否定的な感想が同程度で、中間的と言えよう。D，G 地点では、否定的感想が 40% 前後で肯定的感想を上回っている。このことから、B，C 地点の植樹帯は良いイメージで、D，G 地点の植樹帯は悪いイメージで捉えられていることを示す。

表 I - 30 A 地点の植樹帯に対する感想

調査Ⅳ(25)		調査Ⅶ(25)	
肯定的感想		肯定的感想	5
・良い	14	・良い	2
・植樹帯が設置されて良くなつた	6	・ないよりはあった方が良い	2
・気持ちが安らぐ	2	・車が走っていても安全な感じがして良い	1
・花が咲いている時きれい	2		
・きれいに整備されている	1		
・緑量はこの程度が良い	1		
否定的感想	4	否定的感想	11
・手入れが足りない	1	・植えっぱなしで手入れが足りない	1
・公害のためかわいそう	1	・排気ガスのためかわいそう	2
・特にきれいでもないが一応ある	1	・ほこりっぽくてかわいそう	1
・沢山緑があった方がよい	1	・植樹帯の周囲をコンクリートが囲み窮屈な感じがしかわいそう	1
		・まだ緑が足りない	1
		・ただ植えてあるだけで美しくない	1
		・もっときれいな緑がほしい	1
		・密に植えてあるのでうっとおしくうまく育たず不自然である	1
		・緑は人の心をなごませるがこここの植樹帯にはそれがなく人工的でただ置いてあるだけの造花のような感じがする	1
		・植樹帯の中にゴミがたまっていて汚い	1
両方の感想	4	両方の感想	5
・もっと植樹帯があつても良い	1	・植樹帯が設置されて良くなつたが花が咲けばもっと良い	3
・植樹帯が設置されて良くなつたがこれ以上ふやすことはできない	1	・ないよりはあった方が良いが排気ガスのためかわいそう	1
・ないよりはあった方が良いが手入れが足りない	1	・良いが植樹帯の中の掃除がされていない	1
・ないよりはあった方が良いが目隠しのためにもっと樹高を高くしてほしい	1		
無回答及びその他	3	無回答及びその他	4

表 I - 30 ~ 35 は、E 地点を除くそれぞれ 6 地点について、植樹帯に対する感想の自由回答を具体的に言葉として示したものである。

A 地点の特徴的な点は、調査Ⅳで肯定的感想が否定的感想を大きく上回っていたものが、調査Ⅶで逆転していることである。植樹帯が設置された当初は、植樹帯が設置されて良くなり、もっとあっても良いという意見が多くかった。しかし、1 年を経て、周辺環境の悪さが植樹帯を押し潰し、ただ植えてあるだけという感想が現ってきた。この地点は単なる歩行空間ではなく、バス停の機能を持ち、人の目に触れる機会も多い。従って、森町ビルの駐車場となっている建物側や歩道の舗装等の整備を総合的に行うことによって、植樹帯を生かす必要がある。

表 I - 3 1 B 地点の植樹帯に対する感想

調査Ⅳ(25)		調査Ⅵ(25)	
肯定的感想 ・良い ・ないよりはあった方が良い ・印象が良い ・目の保養にもなり良い ・きれいで良い ・手入れがしっかりしておりきれい ・植樹帯が設置されたことにより緑がふえた ・植樹帯があった方が危険性が半減する	19 12 1 1 1 1 1 1 1	肯定的感想 ・良い ・ないよりはあった方が良い ・遮音のためにもあった方が良い ・自然な感じがして良い ・自然に見せようとする努力が感じられて良い ・目の保養になり歩行者が安心して歩くことができるでの良い ・子供が車道に飛び出すことができないので良い	16 10 1 1 1 1 1 1 1
否定的感想 ・まだ緑が少ない ・お金がかかっているのに皆がこれを見ているのかどうか疑問でありそこがゴミ捨て場になっている	2 1 1	否定的感想 ・手入れが足りない ・花が咲かないで色のついたものがほしい ・緑だけではつまらないで赤等のアクセントがほしい	4 2 1 1
両方の感想 ・もう少し緑があると良い ・緑に賛成であるがもっと大きいのがほしい ・樹齢はもっとあると良い	3 1 1 1	両方の感想 ・ないよりはあった方が良いがゴミがあつて汚い ・ないよりはあった方が良いが手入れが足りない ・美観は良いがガードレールがなくなったので車の歩道への飛び込みが不安である	4 2 1 1
無回答及びその他	1	無回答及びその他	1

前述したように、B 地点は最も肯定的感想が多い。ただ良いという漠然とした感想が大半を占めているが、修景及び安全性や騒音緩和の効果を認めている人もいる。否定的感想は非常に少ないが、調査Ⅳではもう少し緑がある方が良いという意見があり、調査Ⅵでは手入れが足りないと花の咲く木がほしいという意見が現れ、その意見はより高次化している。歩行者にとって、B 地点の植樹帯は良いものとして受け取られ、問題は少ない。しかし、歩行空間として見ると、緑化後そのイメージの中の安全性が悪化し、問題点の指摘も増加している。この原因は車の右左折や交通量の多さなど自動車交通にあるが、B 地点の植樹帯は密でなく、車の走行が見える状態であることから、却って歩行者の不安を招いたことが考えられるところに述べた。一方、植樹帯が設置されたことによって、B 地点が歩行空間として意識の対象となり、問題点の指摘が増したことを考えると、間接的ではあるが B 地点の植樹帯がそれらの問題に影響を及ぼしていると言えよう。従って、それらの問題を解消するためには、もう少し密で充実した植樹帯の設置と周辺環境の改善が必要である。

表 I - 32 C 地点の植樹帯に対する感想

調査 IV (25)		調査 VI (25)	
肯定的感想	15	肯定的感想	10
・良い	8	・良い	2
・以前より良くなつた	1	・ないよりはあった方が良い	2
・排気ガス防止対策として良い	1	・車が見えないのであった方が良い	1
・きれい	2	・これだけの緑でもあった方が良く目の保養	1
・好ましい	1	にもなる	
・植樹帯の設置には賛成である	1	・緑がきれいでとても手入れがされていて非	1
・騒音を緩和し車からの物の投げ捨ての緩衝的役割を果たす	1	常に良い	
		・道路を横断できなくしたので良い	1
		・以前より緑が多くなつた	1
		・きれい	1
否定的感想	2	否定的感想	6
・手入れが足りない	1	・植樹帯の中にゴミがたまっている	2
・漠然と植樹帯を設置した感じがせせこましくもう少しきれいに植えてほしい	1	・密に植えてあるので窮屈そうで見通しが悪く植樹帯の中にゴミがある	1
		・もう少し緑をふやした方がよい	1
		・植樹帯の緑色がもう少し濃く出でていればよい	1
		・車から歩道が見えず夜間危ないのでもう少し樹高を低くしてもよい	1
両方の感想	7	両方の感想	4
・もっとあれば一層良い	2	・植樹帯は高く評価できるが中にゴミが入りかわいそなのでゴミ入れがほしい	1
・とても良いが植樹帯幅を広くしきれいにしてほしい	1	・歩車道分離になって良いが枯れていてかわいそう	1
・良いが車が道路に出る時に見通しが悪い	1	・良いが陰になってしまい夜間物騒なのでもう少し樹高を低くした方がよい	1
・良いがよく掘り返して植え替え工事をしていることが多い感じがする	1	・あった方が良いが現在排ガスに強い樹種が植えてあるので自然環境の目安になるよう弱い植物も植えた方がよい	1
・歩行の安全地帯となり良いが緑が伸び放題で夜間怖くゴミを捨てる人も多い	1		
・排気ガス防止対策の一手法であるがバスの見通しが悪く邪魔なのでもう少し樹高を低くした方がよい	1		
無回答及びその他	1	無回答及びその他	5

C 地点も肯定的感想が多い。良いという漠然とした感想以外に、きれいという感想も多く、修景効果が認められる。否定的感想は少ないが、植樹帯の中にゴミがたまるという意見が見られる。また、樹高 1.7m のため、車道への見通しの悪さを訴える人もいる。既往の実験結果と A , B 地点の感想から、この地域では樹高は 1.5~1.6m が適当である。

前述したように、D 地点は最も否定的感想が多く、肯定的感想が少ない。否定的感想は、緑が少ないと手入れ不足に対する意見が A , B , C 地点に比べて多い。従って、A , B , C 地点のように、もっと樹高の高い植樹帯を設置し、管理をしっかりとる必要がある。

F 地点では、肯定的感想も否定的感想も同程度であり、良い点も悪い点も認められる。良い点は、花が咲くので美しいという感想が多い。悪い点

表 I - 3 3 D 地点の植樹帯に対する感想

調査 IV (25)		調査 VI (25)	
肯定的感想 ・良い ・歩いていて良い ・花が咲いている時良く緑も好ましい ・あるのが当然だと思う	7 4 1 1 1	肯定的感想 ・良い ・ないよりはあった方が良い ・気持ち良い	5 3 1 1
否定的感想 ・もっと緑をふやしてほしい ・緑が少ないと ・もっと花の咲く緑があればよい ・手入れが足りない ・雑草を取ってほしい ・緑が青々としていない ・樹高が高い方が良い ・排気ガスのためかわいそう ・整備されていないのできれいではない ・ゴミが多い ・区役所の前は緑が豊富で静かそうであるがそれに比べ緑が貧弱でうるさそう ・管理が非常に悪く手入れをして育てる意識の向上が必要であり植樹帯の幅も狭く早く成長する樹種の方が良い	13 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	否定的感想 ・もっと緑がほしい ・もっと花の咲く緑がほしい ・手入れが足りない ・枯れているのでかわいそう ・手入れが悪く枯れていてきれいではない ・排気ガスのため緑に元気がない ・もっと樹高を高くしてほしい ・汚い ・ゴミがたまっている	16 3 1 5 1 1 1 1 1 1 1 2 1
両方の感想	0	両方の感想 ・緑に感謝しているがもっと成長すればよい ・まあ良いが手入れが足らずこれでは植えない方がよい ・努力は認めるが寂しい	3 1 1 1
無回答及びその他	5	無回答及びその他	1

表 I - 3 4 F 地点の植樹帯に対する感想

調査 IV (25)		調査 VI (25)	
肯定的感想 ・良い ・以前より良くなつた ・花が咲く時良い ・歩道が区別されていて良い ・きれい ・春先に花が咲くのできれい ・他に比べて整備されている	9 2 1 2 1 1 1 1 1	肯定的感想 ・良い ・ないよりはあった方が良い ・緑がふえて良い ・目の保養になって良い ・これ以上樹高を高くして車道が見えなくなると危ないのでこれで良い ・植樹帯は当然あるべきものでなかつたら通らない ・花が咲く時とてもきれい ・植えた人は苦労したと思うので歩行者もこれを大切にしなければならない	10 2 1 1 1 2 1 1 1
否定的感想 ・植えっぱなしで手入れが足りない ・もう少し整備された方がよい ・公害に強くきれいな色をした別の樹種を植えたらよい ・きれいに刈り込んでいない ・ゴミが多い ・もう少し緑があった方が良くこの程度では雨の日に車の水しぶきが飛んでくる	7 1 1 1 2 1	否定的感想 ・手入れが足りない ・あまりきれいではない ・汚いので花がほしい ・ほこりがかぶって緑が目立たない ・排気ガスのためかわいそう ・かわいそう ・手入れ不足というより自動車交通量の多さや排気ガスのために緑が目立たず車の方に気をとられる	10 3 2 1 1 1 1 1
両方の感想 ・春先つづじが咲いて良いと思うので季節ごとに咲く花があれば良いが歩道にゴミがあって汚い ・樹高はこの程度が良く季節ごとに咲く花があると良い	2 1 1	両方の感想 ・良いが排気ガスのためかわいそう ・公害等で育たないのではないかと心配であるがよりはずっと良い ・植樹帯を設置するのは良いがゴミを捨てる人がいる	4 2 1 1
無回答及びその他	7	無回答及びその他	2

は、手入れ不足と自動車による環境の悪さである。F地点は緑化未整備道路であるが、公園の周囲に緑もあり、樹高は低いが植樹帯も設置されている。季節ごとに咲く花を植え、管理をしっかりすれば、これらの緑を生かすことができよう。

表 I - 35 G 地点の植樹帯に対する感想

調査 IV (25)	調査 VI (25)		
肯定的感想 ・良い ・少しでも緑があるので良い ・騒音緩和やほこり等を防ぐのでとても良い ・花がきれいなので楽しみ	7 4 1 1 1 1	肯定的感想 ・良い ・感じが良い ・以前よりきれいになった ・春になると花がきれい ・花が咲いている時良いと思い今の季節（冬期）はあまり思わないが植樹帯はあった方が断然良い ・よく管理されている ・これ以上植樹帯をふやして歩道が狭くなるのも困るのでこの程度で良い	8 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1
否定的感想 ・雑草取り等の手入れが足りない ・緑が少ない ・もっと樹高を高くし歩道分離を図った方がよい ・銀杏ではなく桜等花が咲く木がほしい ・大きな木がほしい ・ゴミ捨て場になっている感じがするので大きな木を植え下草がない方がよい ・小学校前のようにもっときれいに整備してほしい	7 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	否定的感想 ・排気ガスのためかわいそうで植えても仕方ない ・潮風や排気ガスのため枯れてしまう ・もっと緑量をふやした方がよい ・花を植えたらよい ・樹高が高い方がよい ・もう少しきれいに整備して樹高を高くする ・ゴミがあつてあまりきれいではない ・ゴミがある ・雨が降らないと枯れてしまうのは水をやらないからであり枯れたら新しく植え替えていくだけのところに問題がある ・植え替えたようだがそんなに金を使ってはいけない	15 3 1 1 2 2 1 1 2 1 1 1 1 1 1
両方の感想 ・良い方であるがきれいにすればもっと良い ・春先花が咲いてきれいだが形をきれいに整備しもう少し街路樹がほしい ・緑はあるが樹高を高くした方がよい ・ないよりはあった方が良いが手入れが足りない ・緑があることは良いが雑草が多い ・緑を植えるのは良いが道路工事で壊し汚くしている	6 1 1 1 1 1 1 1 1	両方の感想	0
無回答及びその他	5	無回答及びその他	2

G 地点に関し、調査 IV では肯定的感想と否定的感想及び両方の感想が同程度であったが、調査 VI では両方の感想がなくなり、その分否定的感想がふえている。肯定的感想では、良いとか花が咲くときれいという感想が多い。否定的感想では、樹高を高くした方がよいという意見が多い。また、

小学校前のようにもっときれいに整備してほしいなど、整備が足りないことに対する意見もあり、C，B，G地点を連続的なつながりとして捉えている。従って、現在植樹帯が設置されていないE地点も含めて、アラカシの植樹帯を設置することは、一連の緑道を形成することになり、地域のシンボルになるであろう。

全体としては、A，B，C地点の植樹帯に対しては、肯定的感想が多い。それに対し、D，F，G地点の植樹帯には多くの問題が含まれ、緑が少ないとか手入れ不足であるという意見が多い。従って、D，F，G地点もA，B，C地点のように樹高の高い植樹帯を設置することが望まれる。また、歩行者は植樹帯の設置に関し、花の咲く樹種を欲しており、それによってより人々に親しまれる歩行空間が形成できよう。

#### 3-5-4 要約

本調査対象歩行空間における歩行頻度は高く、特にマツザカヤ前が著しい。また、最大の問題点は道路交通騒音によるうるささである。

小学校運動場前の歩行空間について、植樹帯の設置により、歩行頻度が増加する傾向を示すと共に、緑の少なさに対する問題が減少することが明らかとなった。一方、問題点指摘率は高くなっているが、これは緑化されたことによってこの歩行空間に対する歩行者の意識が高まったことを示唆している。しかし、安全に対するイメージの悪化とも対応して、植樹帯設置後の危ないという指摘の増加も示唆される。その原因は自動車交通によるものであり、小学校運動場前の植樹帯はマツザカヤ前のそれに比べ密でなく、車の走行が見える状態であることから、却って歩行者の不安を招いたと考えられる。マツザカヤ前の歩行空間については、ゴミが落ちており、舗装がでこぼこであるため、居住者も歩行者もきたないと感じている。磯子車庫前の歩行空間については、植樹帯が設置されていないため、問題点が最も多く、緑が少なくきたないという指摘が多い。

植樹帯に対する感想は、小学校運動場前とマツザカヤ前の植樹帯に対する評価が高く、緑化未整備道路にある共同ビル前と磯子郵便局前が低い。緑化未整備道路の植樹帯には多くの問題が含まれ、緑が少ないとか手入れ

不足であるという意見が多い。従って、緑化未整備道路も、既存緑化道路や緑化事業道路の植樹帯のように、樹高の高い植樹帯を設置することが望まれる。また、歩行者は植樹帯の設置に関し、花の咲く樹種を欲しており、それによってより人々に親しまれる歩行空間が形成できよう。

### 3-6 歩行者に対するインタビュー調査のまとめ

磯子区森1丁目産業道路沿いの植樹帯設置事業前後、及び1年後における当該歩道上の歩行者に対するインタビュー調査の結果についてまとめると、次のようになる。

- 1) 歩行者も地域環境に対する意識は高い。
- 2) 主目的となる対象物から歩行地点までの距離と歩行目的の分布は対応し、近いとその主目的を持つ人が多くなり、遠いと少なくなる。従って、その中間距離に位置する歩行空間や明確な目的を有する対象物がない歩行空間では、そこで歩行目的が多目的となる。
- 3) 歩行者も居住者と同様、京浜急行屏風ヶ浦駅方面よりJR磯子駅方面への人の流れが大きい。
- 4) 小学校運動場前の歩道に植樹帯が設置されたことにより、その歩道がよく利用されるようになり、散歩をすると言う人も多く歩行するようになっている。
- 5) 当該歩行空間に対して、居住者も歩行者もある程度固定した共通のイメージを持っている。但し、騒がしさやにぎやかさという音に関するイメージは、歩行者の方が厳しい評価をしている。  
植樹帯が設置されたことにより、緑が多くなったことを認める効果と圧迫感が現れないことが明らかになった。
- 6) 緑化未整備道路の植樹帯より既存緑化道路及び緑化事業道路の植樹帯の方が評価が高い。
- 7) この地域及び歩行空間における最大の問題は、道路交通騒音である。